

## 「近未来の課題解決を目指した実証的社会科学推進事業」最終評価結果表

研究領域	研究領域2 生活の豊かさを生む新しい雇用システムの設計
研究課題名	すべての人々が生涯を通じて成長可能となるための雇用システム構築
責任機関	東京大学
研究代表者	玄田 有史 (社会科学研究所教授)

## 評価結果

- S. 事業の目的に照らして、期待以上の成果があった  
 A. 事業の目的に照らして、十分な成果があった  
 B. 事業の目的に照らして、十分ではなかったが一応の成果があった  
 C. 十分な成果があったとは言い難い

## 評価にあたっての意見

本プロジェクト「すべての人々が生涯を通じて成長可能となるための雇用システム構築」は、多分野の多数の研究者を組織し、一定の研究成果が出されたプロジェクトであると評価される。特に以下の点で優れていると判断された。

- ・ 実証的分析による研究成果を踏まえて実践的な提言がなされた。
- ・ 実証研究に止まらず、事業から得られた知見をもとに東日本大震災に対応した。
- ・ 多くの学校を訪問し、現場との意見交換を精力的に行なった。
- ・ チャレンジングなテーマに取り組み、多くの傾聴すべき提言が出された。

他方、本プロジェクトが提案する<「創造的安息」が実現できる雇用システム>については評価が分かれた。非常にユニークで政策的にも示唆に富んだ内容が提言されていると評価する意見があった一方で、新しい雇用システムの具体的内容が、個々の提言・アイデアからは見えてこない、といった意見もあった。

多くの委員が一致して指摘していたのが、メンバー間での連携が不十分であるという点である。既述のとおり、本プロジェクトは多分野の多数の研究者がかかわって実施された点では評価されるが、各メンバー間で連携が不十分で、プロジェクトの趣旨がメンバー間で十分に共有されていない。アウトプットが本プロジェクト固有の成果であることをアピールするためには、当初計画の段階で、研究内容や体制について、もうすこしメンバー間でコンセンサスをえておく必要があるのではないか。結果として、当初計画したものと最終的に実施されたプロジェクトのあいだにズレが生じている、という意見もあった。

以上述べたように本プロジェクトには、改善されるべき点はあるものの、総合的にみると、出された成果には、多くの新しい知見があり、事業の目的に照らして十分な成果があったという判断が下された。

今後、本プロジェクトの成果がどのように活用され、具体的な政策展開につながったのかを評価し、フォローアップしていくことを期待する。